

新潟の映画館のチラシ

■映画の発展

新潟市に活動写真の常設館（大竹座）ができたのは大正3（1914）年のことです。その後次々と常設館が開館しました。それまで主に劇場や寄席で上映されていましたが、活動写真の人気とともに閉館や活動写真館に改築されることが多くなりました。大衆娯楽の中心が、芝居から映画へと移ったのです。

世界最初の映画は1888（明治21）年にルイ・ル・プランスが生み出しました。映画は、「サイレント期（音声・音響、特に俳優の語るセリフが入っていない）」と呼ばれる時代に成熟し、1920年代末に発声映画（トーキー）にとって替わりました。

常設館以外での活動写真の最初の上映は、明治37（1904）年といわ



大正14年公開 「鞍馬天狗」ほかのチラシ こんびら館（西厩島町）

こんびら館には、大正13年に主演の尾上松之助が来館している（当館所蔵）

れています。活動写真館の建物は当時としてはとても立派で、ハイカラな感じだったようです。そして、昭和30年代に映画の黄金時代を迎えます。

■サイレント映画

サイレント映画の時代は、弁士がとても人気がありました。各映画館に専属の弁士がいたのです。弁士の口調に合わせて技師が手でフィルムを回しました。「さて皆様、いよいよこれより、電気応用活動大写真の公開でございます…。」と得意の口上を述べてから映写になったそうです。

活動写真を初めて観た人々は、「写真が人間と同じように動く」と不思議だったようです。また、トーキーの時代になると「映像から声が出てくる」ことに驚いたといわれています！



昭和11年公開 「孫悟空」のチラシ

オールトーキーを強調している（当館所蔵）